

■クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究

大阪大学大学院への委託で、大阪外国語大学、追手門学院大学の研究者にも参加頂き研究を実施

- ①クルマ依存世帯(クルマを所有し、家族の送り迎えを行い、歩いて行ける場所でもクルマを利用するという世帯)の割合が、約45%にもものぼること。(本委託のアンケート調査結果より)
- ②国道171号沿道にはロードサイド型店舗が集積しており、市民の車利用生活をサポートしていること。
- ③子供や学生、クルマを運転できない高齢者にとって、生活における自由度が少ない。など、箕面市民のクルマに依存した生活の実態が明らかになりました。

また、これからの「まち」をどのように作るか、どのような「システム」を導入するか、人々の「意識」をどのようにして変えるかの三つの視点を持って考えていくことが、クルマに依存しない郊外生活を可能とする鍵とされており、これからの郊外の「まち」と「くらし」に向けて、それぞれの視点から提案をいただいています。

詳しい内容については、平成17年9月に開催する予定の「クルマに依存しない郊外生活を考えるシンポジウム(仮称)」で、発表していただく予定です。

■平成17年度活動計画が決定

平成17年度北大阪急行線延伸推進会議の総会が、平成17年5月19日に市役所本館3階の委員会室で開催され、平成16年度の活動・決算報告と、平成17年度の活動計画案・予算案が審議され承認されました。

また、延伸実現に向けて、今後より活発に活動すべきとの意見がありました。今年度は、次のような活動を実施する予定です。

- 国、府、鉄道事業者へのより積極的な要望活動の実施
- PRイベントとして、「クルマに依存しない郊外生活を考えるシンポジウム」の開催
- 調査・研究活動として、大阪大学への委託研究「クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究2」の実施
- 「北大阪急行線延伸整備計画策定調査」の実施(市事業)

総会出席者

箕面市役所	藤沢市長	顧問(市議会)	北口議長、神田副議長
箕面商工会議所	尾池会頭		上田交通対策委員長
大阪北部農業協同組合	渡邊組合長		牧野副委員長
大阪船場織物卸商団地協同組合	小杉副理事長	オブザーバー	大阪府交通道路室
顧問(府議会)	原田府議、中島府議		平野課長
			吉村参事
			総合計画課
			福西参事

★6月に入り、COOL BIZ(クール ビズ)という言葉をあちこちで見かけるが、連日、HOT(ホット)な日が続く毎日、地球温暖化は思った以上に進行しているのかも?

★「人と環境にやさしい交通体系」をつくるには北大阪急行線の延伸は不可欠であるが、人も環境にやさしくするようにクルマ利用を少しひかえてみてはどうか!

★「より親しみやすく」をめざし、紙面を一新しました。今後とも皆様方の変わらぬご支援・ご声援をお願いします。



北大阪急行線延伸推進会議(構成メンバー)

構成員	箕面市、箕面商工会議所、大阪北部農業協同組合、大阪船場織物卸商団地協同組合
顧問	地元選出府議会議員、市議会議員
オブザーバー	大阪府
支援団体	豊能町、能勢町、川西市
特別賛助会員	かやの中央まち育て協議会
賛助会員	箕面青年会議所、箕面ライオンズクラブ、箕面船場ライオンズクラブ、箕面ロータリークラブ、箕面中央ロータリークラブ、みのおコミュニティ放送(株)、箕面市観光協会、箕面市文化振興事業団、箕面市国際交流協会、大阪府宅地建物取引業協会箕面支部、箕面測量設計協会、箕面都市開発(株)、緑遊新都心(株)、大阪外国語大学、聖母被昇天学院、大阪青山短期大学、梅花女子大学・短期大学、関西大倉中学校・高等学校、追手門学院、摂南中学校・高等学校、東急不動産(株)

きたきた通信

No. 9



平成17年 6月 17日 北大阪急行線延伸推進会議 発行

〈お問い合わせ〉 北大阪急行線延伸推進会議事務局 箕面市都市計画部交通政策課
〒562-0003 大阪府箕面市西小路4丁目6番1号 TEL:072-723-2121(代) FAX:072-722-2466

■北側国土交通大臣に早期延伸実現を要望

平成17年2月15日、藤沢市長、尾池箕面商工会議所会頭、顧問の原田府議及び構成団体の幹部メンバーが北側国土交通大臣に北大阪急行線延伸の早期実現を求める要望を行いました。

面談では、「かやの中央」が平成15年10月にオープンして以来、年間900万人もの来場者があり、順調にまちづくりが進んでいることや、国道423号バイパスも平成19年春の供用開始を目指し、工事が進捗していることなどを説明し、北大阪急行線の延伸が、公共交通中心のまちづくりを進める上で根幹となる事業であり、国道423号(新御堂筋)の渋滞対策や、京都議定書が発効する中、地球温暖化など環境対策に貢献するためにも、早期に延伸を実現したいとの思いを伝えました。

この他、2月16日には近畿運輸局、2月21日には阪急電鉄(株)、北大阪急行電鉄(株)及び大阪府などの関係機関にも支援、協力を求め、要望活動を行いました。



■研修会の開催

平成17年1月21日、国土交通省近畿運輸局企画振興部の坂本企画課長を講師に招き、本推進会議会員、賛助会員、市議会議員、市関係部局職員等約70名が出席する中、「近畿地方交通審議会答申第8号」の概要について、ご講演をいただきました。

■「みんなで考えようクルマ社会——そして北大阪急行線延伸」パネル展の開催

京阪神都市圏パーソントリップ調査によると、箕面市民が普段の移動に自動車を使う割合は37%と、周辺市(平均約27%)と比べ約10%も高くなっています。

本推進会議では、「人と環境にやさしい交通体系づくりへ」をテーマとして、北大阪急行線の延伸計画をPRし、「クルマから公共交通への利用転換」を広く市民の皆さんに働きかける内容のパネルを作成し、市内3箇所で開催しました。

- 平成17年2月24日から3月 2日：みのお市民活動センター
- 平成17年3月15日から3月29日：東生涯学習センター
- 平成17年4月 7日から4月14日：メイプルホール

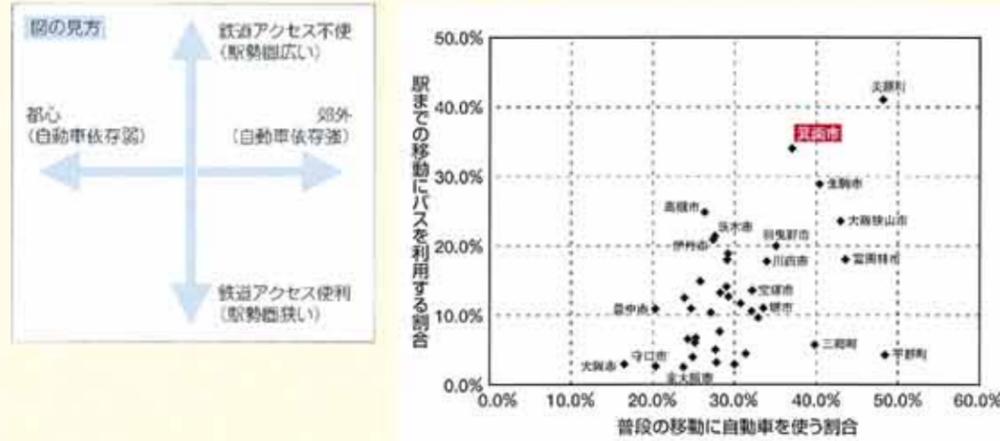


■ 北大阪急行線延伸に関する 総合交通体系のあり方調査 (H16年度 市調査) 要旨

- 北大阪急行線延伸の実現にあたっては、「競合路線との調整」、「乗降客の確保」などの課題があります。
- 阪急電鉄(株)、北大阪急行電鉄(株)、大阪府、箕面市からなる意見交換会を開催し、そこでの意見も参考に、箕面市における都市交通政策の基本的な方向性や北大阪急行線を延伸した場合に既存の地域交通に及ぼす影響について検討を行い、総合交通体系のあり方をとりまとめました。
- 今回の検討では、新駅の設置に伴う鉄道分担率の増加を見込んでいます。この予測値を現実のものとするためには、公共交通を主体とした人と環境に優しい交通体系を構築していく必要があります。また、開発に伴う需要も、目標年次時点の人口を見込んでおり、各開発プロジェクトや関連する都市基盤の事業促進を図り、定住人口の増加を着実なものにする必要があります。

1 箕面市の現状

- 人口の定着が着実に進んでいる
- 開発が進行中、基盤整備が進んでいる
- 明治の森箕面園定公園、箕面大滝などの観光資源を抱えている
- 鉄道不便地域が広く、大阪府内でも自動車への依存度が高い市町の一つである
- バス路線網が千里中央への一極集中型で市民の公共交通への満足度が低い



2 上位計画の整理

- 環境問題への対応、高齢化社会への重点的な取組が必要
- 公共交通を主体とした環境にやさしいまちづくりの推進

3 箕面市における都市交通政策の基本的方向

上位計画や交通面の課題から、まちづくりの基本方向を整理し、これらをもとに都市交通政策の基本方向を6点に整理

公共交通へのシフトを促進する交通基盤構築	観光交通の支援(観光地の魅力アップ)
大阪都心部へのアクセス性の改善	都市拠点・生活拠点間の連携の支援・促進
北大阪地域の広域交通結節点としての拠点整備	時代の要請や将来交通ニーズへの対応

4 北大阪急行線を延伸した場合の現交通体系への影響検討

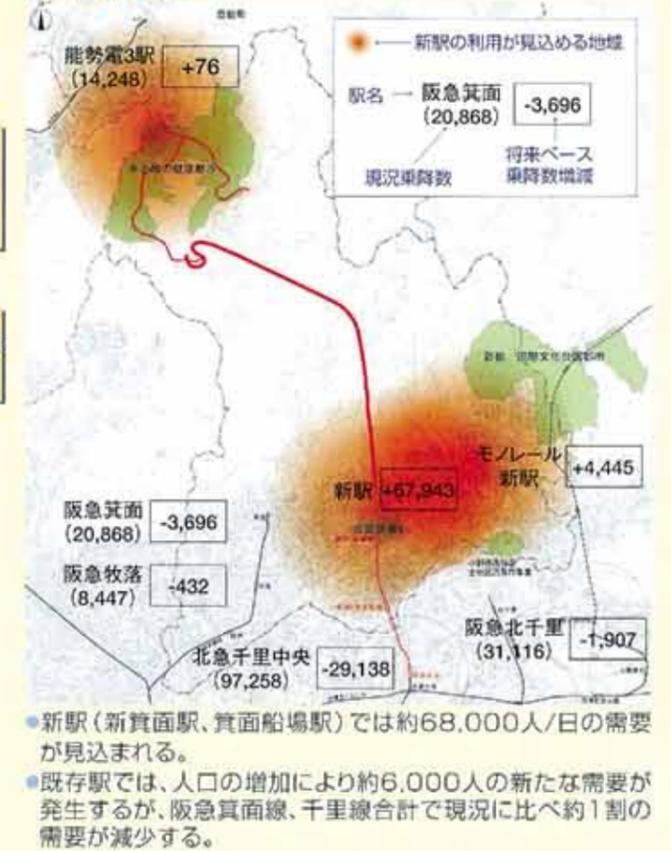
(1) 推計の考え方

- パーソントリップ調査データから、新駅への転換量を推計
- 鉄道分担率の上昇を考慮
- 開発による人口増・基盤整備を考慮
- visolaの逆輸送需要を考慮

(2) 推計のフロー



(3) 推計結果



5 箕面市における総合交通体系のあり方(総合交通体系構築のための施策提案)

北大阪急行線の延伸

「人と環境にやさしい交通体系づくり」、「魅力的なまちづくり」に大きく貢献する、箕面市の総合交通体系の構築に向けた施策の一つの柱として推進。

北大阪急行線の延伸と一体的に実施すべき施策

- ① 鉄道の利便性向上策
 - 駅のバリアフリー化
 - 駅の生活支援機能の向上
- ② バスの利便性向上策
 - 箕面新都心を拠点としたバスルートの再編
- ③ 公共交通機関の連携施策
 - 新駅での駅前広場の整備
 - シームレス化(ICカードの導入)
- ④ 観光・まちづくりからの施策
 - 観光期間中の自家用車規制→シャトルバス運行
 - 箕面駅前の活性化、船場卸商団地の活性化
- ⑤ 歩行者・自転車に対する施策
 - 安全な歩行環境の整備
 - 既存駅、新駅での駐輪場の整備
- ⑥ 住民意識への働きかけ
 - 公共交通の利用が有益であることを個々に伝え、交通行動の転換を促す施策の推進